

# 厚岸大橋完成までの歩み

出典：厚岸町史下巻ほか



▲厚岸大橋鳥瞰図



▲丸木舟(板綴橋)  
【海事記念館展示】

- 1882(明治15)年
  - ▼ 湖南・湖北地区の往来は、アイヌ民族が丸木舟で往来したのが始まりとされている
  - ▼ 太田紋助が渡守をしていたという記録があり、これが渡船に関する最古の記録
- 1928(昭和3)年
  - ▼ 当時の本町・真竜に**栈橋**が完成。個人経営から町営の渡船を始める
- 1950(昭和25)年
  - ▼ 各方面関係官庁等に対し、陳情や請願を行う
- 1954(昭和29)年
  - ▼ 厚岸架橋促進期成会が厚岸町有志により設立され、随時運動が展開される
- 1955(昭和30)年
  - ▼ 町民の長い間の懇請と架橋の必要性が認められ、北海道において海底地質調査を行ったが、地盤軟弱と巨額の工事費を要するため中止となる
- 1959(昭和34)年
  - ▼ 架橋中止の代替として、日本道路公団経営による北海道初のフェリーポート『厚岸丸』が就航する
- 1964(昭和39)年
  - ▼ 『厚岸大橋架橋促進期成会』の設立総会が開催。会長には厚岸町長の斉藤信男、副会長には浜中町長の鳥居巳三・厚岸町議会議長の村上忠次・厚岸町商工会長の徳田外征雄が就任
- 1965(昭和40)年
  - ▼ 厚岸大橋架橋促進期成会の北海道に対する陳述運動により、『厚岸大橋』の実現が当時の町村知事、三枝副知事により確約される
  - ▼ 架橋ルート周辺の海底、陸上爆破による地盤調査を実施する
  - ▼ 厚岸大橋の海底地盤調査のためヤグラ方式によるボーリング工事を実施する
- 1967(昭和42)年
  - ▼ ボーリング工事を実施(海上2本、陸上1本)
- 1968(昭和43)年
  - ▼ 厚岸大橋早期実現陳情団(期成会長ほか10人)が東京へ。開発庁、建設省、大蔵省へ陳情
  - ▼ 厚岸大橋の架橋が閣議で決定する
- 1969(昭和44)年
  - ▼ 厚岸大橋架橋ルートが決定。橋梁タイプは『ゲルバー型式連続ワーレントラス橋』と決定
  - ▼ 厚岸大橋架橋ルートにおいて、ボーリング工事を行う
  - ▼ 厚岸大橋架橋試験工事、修祓式と起工式を行う
- 1972(昭和47)年
  - ▼ 厚岸大橋架橋本工事、修祓式と起工式を、町村知事はじめ国會議員、北海道議會議員多数参加のもと盛大に行う
  - ▼ 宿願であった厚岸大橋が完成。町内が歓喜にあふれる



▲厚岸大橋渡り初め  
(親子3代関係者ほか)



▲着工を満艦飾で祝う海上パレード



▲厚岸大橋橋桁工事



▲知事に架橋を陳情する町民



▲フェリーポート『厚岸丸』

▲厚岸フェリー時刻表

行き先	時刻	戻り先	時刻
6:10	3:30	7:10	6:30
7:10	7:30	8:10	7:30
8:10	8:25	9:10	8:45
9:10	9:15	10:00	10:15
10:00	10:15	11:00	11:15
11:00	11:20	12:00	12:35
12:00	12:30	13:00	13:30
13:00	14:10	14:00	14:45
14:00	15:20	15:00	16:00
15:00	16:00	16:00	16:30
16:00	17:05	17:00	17:40
17:00	18:20	18:00	19:00
18:00	19:20	19:00	20:00
19:00	20:00	20:00	20:40
20:00	21:20	21:00	21:20
21:00	22:00	22:00	22:30



▲厚岸フェリー通行券



▲渡船『ちどり丸』

厚岸大橋工事概要	
橋長	456.5メートル
総事業費	1,346,000,000円
橋種	ゲルバー型式連続ワーレントラス橋
着工	昭和44年5月24日
完成	昭和47年9月24日